

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	なじみの人や場との関係継続の支援 馴染の方と出会うことがあり会話が弾むことがまれにあります。毎月のきずなカフェ開催時に地域の方との交流も数名の方に限りありますがあります。地域行事開催時は可能な限り全員で参加しています。併設の就労支援事業所の喫茶に行きそこで顔なじみとばったり出会ったこともあります。しかしながらここまでが限界です。個別に知人、友人や商店、行きつけの場所等と本人がつきあいを続けられるように、実際に会いに行ったり来てもらったり、あるいは、出かけていく場面までは到底出来ません。	馴染みの関係構築については、利用者とながっていた場所へ訪問する以外にも、利用者との関わりや馴染みのある方の連絡先を家族から聞くことにより、グループホームに入所してからも可能な限り、関係が途切れないような取り組みを協議し協力を得る。	項目こそ違いますが個別に支援する項目で3回目の指摘を受けました。評価時にもお話しさせていただいてますが法律上ギリギリの体制で業務を行っています。その中でできる範囲の事しかできていません。評価時にアドバイスをいただきましたように、個別に馴染みの関係方との交流方法について、ご家族から馴染の方の電話番号を聞いて事業所から連絡することを通して馴染の関係の構築に繋げる方法など、運営推進会議で意見を求めたいと思います。	不明
2	36	一人ひとりの尊重とプライバシーの保護 介護中は特にカーテンや扉を閉めて羞恥心に配慮しています。気配りしながら声かけをすることについての研修を年一度開催はもとより、職員間の報告・連携・相談を確実に行うことで「人格を傷つけることのない対応を個々の状態に合わせて行いましょう」と日々努力しています。また日々の申し送り時に気づいた事柄を話し合うようにしています。扉を開けたままの居室にはのれんでのプライバシーの保護に努めています。認知症のある利用者の方にトイレの位置が目に見えてわかるように、職員が廊下の方からトイレの中が確認できるようにと言う思いで目隠しのカーテンをしていませんでした。	(利用者の羞恥心やプライバシーへの配慮として、共用トイレの入り口から排泄行為が見えるのではないかと感じました。)トイレの入り口にカーテンやのれんをかけるなど、プライバシーの確保に向けた取り組みを行なう。	認知機能障害があっても配慮することを忘れてはいけない、プライバシー保護の観点から何か工夫をする事は必要だと考え職員会議で検討しました。その中で①業務でバタバタしているときに通りすぎりにトイレの中がわかるようにある程度考えて欲しい②カーテンがついて中の様子が見えないと利用者の方が理解できず、かえって不安になるのではないかと。の意見があり協議の上ある程度透けて見えるカーテンを設置する事で、全面的にプライバシー保護はできませんが、対応しました。	1ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。